～欣浄寺法語メール～２０１７年８月～

「鬼の手に念珠」

今年２月本願寺で源信僧都（そうず）千回忌法要が勤修されました。親鸞聖人は正信偈で「源信広開一代教　偏帰安養勧一切（源信僧都はお釈迦様のお経から、浄土の教えを選びおすすめくださいました）」と讃えられています。先日、源信僧都の故郷である奈良の国立博物館で開かれている「一千年忌特別展～源信・地獄極楽への扉～」を観てきました。展覧会のタイトルからしてさほどの観客は訪れはしないだろうとの予想は外れ、夏休みも相まって世代を超えて多くの人々が詰めかけていました。

印象に残った絵が二点。一つは「沙門地獄絵」・・・沙門すなわちお坊さん専用の地獄

が用意されているのです、他人事ではありません。あと一つが「閻魔大王図」、生前の罪状を裁くために地獄の獄卒である鬼が、鎖でつないだ故人を閻魔さまの前に引き連れます。その鎖が鬼の手にはあたかも念珠を持っているように描かれているのです。「鬼の手に念珠！？」作者にその意図はなかったのでしょうが、そのように見えるのです。「極重悪人唯称仏　我亦在彼摂取中（閻魔さまに裁かれる罪を重ねてきた者たちよ、この鬼と合掌するがよい。ともに阿弥陀さまのみ光に中にある）」。館内にはあまたの地獄図絵を上回る極楽浄土図、そしてあたたかく罪人を見つめる阿弥陀さまのお姿が輝いていました。

追記　小生が「本願寺名古屋別院報<第142

号>8月5日号P3」で紹介されました。ご笑覧ください。
http://www.tokai-hongwanji.net/bh/bh.html